

研究課題	つながる力、挑戦する力、自分を見つめる力を育むキャリア教育
副題	ICT のチカラを借りて、キャリアの視点を教育活動に融和させ、持続的に普遍的な力を育てる
キーワード	主体性、社会性、表現力、聞く力、挑戦する力
学校/団体名	相楽東部広域連合立 和東小学校
所在地	619-1201 京都府相楽郡和東町園神定 5 7
ホームページ	http://www.kyoto-be.ne.jp/watuka-es/cms/

1. 研究の背景

本校は「茶源郷」と呼ばれる和東町唯一の小学校である。立地的要因により、他校の児童など多様な人達と関わる機会は少ない。また、幼少期から同一学習集団であるために、活躍する児童が固定化されやすく、主体的に行動・チャレンジする機会が限定的である。さらに全国学力学習調査の質問紙の「地域への関心・貢献」では、全国平均より数十点低い現状もある。この現状において、本研究重点の3つの力を育むことは、society5.0やSDGsの理念が重要視される今後の社会で、よりよく生きるための最重要課題の一つである。

3つの力の育成は未来にどのようにつながるのか。①つながり力は、課題設定・解決のために多様な人々と「共(に)創(る)」力の基盤に、②チャレンジ力は、複雑化・国際化する社会において、必須の「行動力・レジリエンス」の基盤に、③自分発見力は、「自分らしく」生きるための「自己理解力」の基盤になると考える。地方特有の課題ともいえる本校の現状をふまえ、前に進めるべく、テクノロジーの特性を借りて、キャリア教育の視点・ねらいをあらゆる教育活動に融和させつつ、本研究を探求・持続させていきたい。

2. 研究の目的

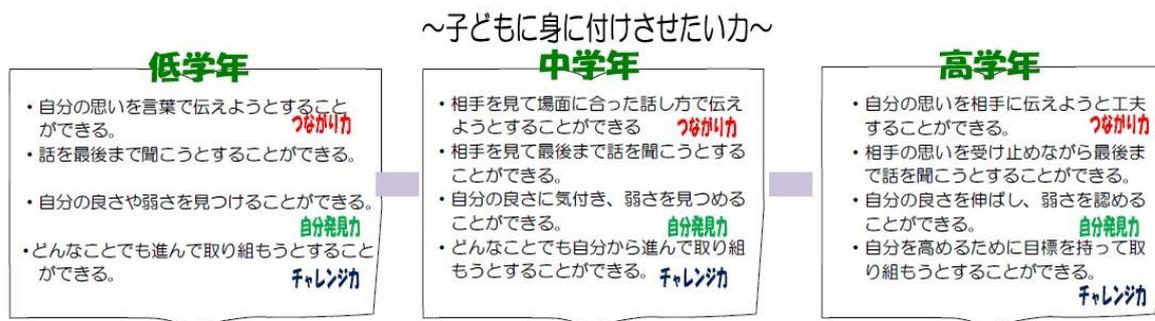
研究の背景を踏まえて、本校では「キャリア教育」を重点領域と位置づけ、「自分を見つめ、人とつながり、目標に向けて学び続ける児童の育成」という研究目標を掲げた。

キャリア教育で育成したい「基礎的・汎用的能力」は、今後の社会においても必要な普遍的な力である。本校では、その中で「人間関係形成能力」（つながり力）と「キャリアプランニング力」（チャレンジ力）、「自己理解・自己管理能力」（自分発見力）の育成を重点目標に定めた。

下記の3点が本研究を通して、児童に身に付けさせたい力である。

- 1) 自分の思いを伝え、相手の思いを受け止めることができる。（つながり力）
- 2) 自分で考え、主体的に自己決定し、挑戦できる（チャレンジ力）
- 3) 自分を見つめ、ありのままの自分を認めることができる（自分発見力）

<各ブロック学年の具体的な目標>



上記の力を育むために、ICT 機器を活用し、キャリアの視点を組み込んだ特別活動の推進や授業力の向上をめざす。これまでの二年間の研究で培った手法の改善や探究をさらに進めるとともに、「途切れることなく」実践を続けていくためにも、テクノロジーの特性を生かす。コロナ禍という制約の中で「オンラインで多様な人達とつながる（つながり力）」、「自分を見つめ、その記録を蓄積し（デジタル化）、自己の歩みを実感する（自分発見力）」、「デジタル活用で自己表現の手段の選択肢を広げ主体性を促す（チャレンジ力）」

などを一例に、with ICT で研究を促進させる。ICT の力を借りて、全ての教育活動を連動・往来させつつ、3 つの力の醸成を通して、キャリア形成を促し、未来をよりよく生きる子ども達を育てていきたい。

3. 研究の経過

①時期	②取り組み内容	③評価のための記録
5月中旬	① キャリアパスポート作成・デジタル運用 ・個人のめざす姿、学期目標設定（毎学期初めに記入、学期終わりにふり返り）※毎学期実施のため以後省略	ワークシート（児童）
5月末	「生き方」アンケート実施 実態把握・分析→年間指導計画作成 ・3つの力の目標に対する自己評価を調査、データを可視化し、学校全体・学年・個人の実態を分析し、年間指導計画を立てる。	Forms によるアンケート調査（児童） グラフ化されたデータをもとにした結果分析（教職員）
6月～7月	② 他校児童とのリモート交流学习 ・近隣校2校との交流学习を全学年リモートで実施。（つながり・チャレンジ力）	観察記録・写真・ワークシート（児童）
7月	③ 児童間の交流を促すデジタル掲示板 ・共有スペースにモニターを設置し、各学年の活動や学習成果物を共有。	
9月～12月	校内授業研究会 3学年 ・3年理科「昆虫の体のつくり」（つながり力） ・5年学活「ドリームキャッチプラン」（チャレンジ力） ・6年総合「自分探しの旅」（自分発見力）	観察記録・写真・ワークシート（児童） 教師による所感
11月	公開研究会 ※コロナ禍の影響により次年度に延期	
10月～12月	②他校児童との交流学习 ・対面、リモートでの実施（学年による）（つながり・チャレンジ力）	観察記録・写真・ワークシート（児童）
11月26日	④世界で活躍する人のキャリアトーク ・JICA ボランティアで体操を指導し、帰国後体操教室を運営している講師の講演。	観察記録・写真・ワークシート（児童）
2月9日	⑤町の魅力を発信 ・域外学校の児童に、町の魅力をリモートで発信 ・町のゆるキャラを作成・発信	観察記録・写真（児童）
2月中旬	生き方アンケート2回目実施・分析 ・1回目との比較調査。その変化を分析し、成果・課題を共有、次年度に生かす	アンケート調査（児童） グラフ化されたデータをもとにした結果分析（教職員）
3月2日	研究の総括・次年度の方向性 ・各部（キャリア部、デジタル部、地域つながり）ごとに成果・課題を挙げ、次年度の方向性を検討。	児童・教職員アンケート結果 各部の報告書

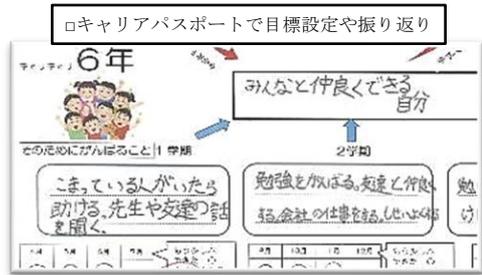
上記の取組以外にも、リモート一年生を迎える会や、別室登校やコロナの影響により登校できない児童への授業のリモート配信などの活動を実施。また日常的に職員用 SNS を活用し、ICT 活用の手法を情報共有し、教職員全体の活用力向上を図った。また、取組や行事について、Microsoft Forms で児童や保護者・教職員へアンケート調査を行い、その結果を事後の取組に生かした。

4. 代表的な実践

(タイトル末にある「※番号」は「3研究の経過」とリンク)

(1) キャリアパスポート作成・デジタル運用 ※①

児童一人ひとりがなりたい姿を思い描き、そのためにできることを記入するキャリアパスポート(紙)を作成した。それを実現するためにも日常的に振り返りをしやすくするために、キャリアパスポートを iPad でデジタル化し、いつでも見返せるようにした。日常的に見返すことで、「今の自分」と「なりたい自分」とそのギャップを振り返り、次の行動変容を促した。また、学期末はデジタル化したキャリアパスポートを家庭に持ち帰り、保護者と共に振り返る機会を設けた。



今後は、紙とデジタルをどのように使い分けると効果的かを児童と共に考えていきたい。

(2) 他校児童とのリモート交流学习 ☆つながり力、チャレンジ力 ※②

本校では、数年前から学期に1～2回程度、近隣小学校児童との交流学习を全学年が実施している。多様な子ども達とつながり(つながり力)、その場で主体性(チャレンジ力)を発揮する経験ができる本活動を通してキャリア形成を促す。今年度もコロナ禍であるが中止をせず、リモートと対面を組み合わせつつ、交流の機会を確保することができた。具体的な実践例を紹介する。

◇3年 理科「校内探検をして理科ミッションを達成しよう」

3つの小学校が集い、理科の学習での既習事項を生かして校内を探検する活動に取り組んだ。iPadのカメラ機能やSky cloud menuの発表ノートを活用し、出された課題に沿ってグループで協働して取り組んだ。



iPadを5～6人グループに1台持たせ、「昆虫を3種類探す」「明かりを利用しているものを3つ探す」など、楽しみながら協力して課題解決する活動を通して、色々な人とつながることができた。

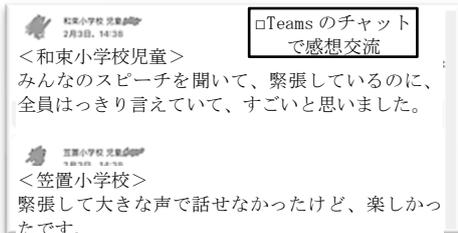
◇1年 生活科 校外学習「動物クイズを出し合おう」

3つの小学校の1年生が京都市動物園で、動物の特徴や生態を学んだ。1人1台iPadを携え、興味をもった動物の写真を撮影し、昼食休憩の際に、その写真をもとに動物クイズを出し合った。動物を実際に見られる機会でのiPadの使用により、見学が疎かにならないか危惧はあったが、各々が興味を持って見学していた。またデジタル写真を活用した動物クイズの交流を通して、3小の児童たちが主体的に交流することにつながった。



◇6年 英語「1年間の思い出をスピーチしよう」

感染症蔓延防止対策のため、今年度は全体の半分程はリモートでの交流学习になった。そのうちに一事例として、英語のスピーチ交流を紹介する。当日の交流に向け、事前に発表するスピーチを考え練習を重ね、当日は各校の代表数名ずつがリモートでつながる他校児童に発表した。最後にはTeamsを活用し、全員が今回の活動についての振り返りを行い、全員が双方向で交流した活動となった。



(3) 児童間の交流を促す情報共有のためのデジタル掲示板 ※③

これまでも全学年を縦割り班に分け、遊びや大縄の取組などを行い、異年齢間を横断したつながりの場をつくってきた一方で、日常的な学習活動の交流はあまり行われてこなかった。そこで、共有スペースに大型モニターを設置し、各学年の活動の様子を即時に掲示し、日常的な学習活動の共有の場を設けた。休み時間などに、児童たちはモニターの前に立ち止る様子が見られるようになり、他学年の活動を知って、次年度への見通しをもったり、異学年の仲間とつながるきっかけとなったりした。

□6年がPowerpointで作成した都道府県の紹介



(4) 世界で活躍する人のキャリアトーク 6年総合「自分探しの旅」 ※④

JICA 京都デスクと連携し、海外を拠点に活躍するゲストを招待し、6年生児童と交流を行った。ゲストは JICA ボランティア経験後、現地（ジャマイカ）で体操教室を起業し、現在も日本と現地で教室を運営している方であった。ゲストの方がこれまでの活動でどのように考え、行動してきたか話を聞くことで、多様な生き方に触れることができた。また、後半は、現地で体操教室を共同運営する現地の方と英語で交流し、多様な背景をもつ人達の人生観に触れることもできた。



□ジャマイカの方と英語で交流

(5) 町の魅力を発信 4年総合「町の魅力の交流」&全校「ゆるキャラを考えよう」※⑤

◇4年総合的な学習の時間「町の魅力の交流」

4年生は3年生時より地域の主産業である茶業を始めとする地域の魅力を調べてきた。今回はその活動をまとめ、地域外児童（※リモート交流している学校と別の学校）に発信することで、多くの人にその魅力を知ってもらおうと考えた。

当日リモートによる発表交流を通して、児童たちは緊張感の中、発表へのチャレンジをするとともに、普段は関わることのない同年代児童との交流を図ることができた。



□煎茶の淹れ方の紹介



◇全校 特別活動「ゆるキャラを考え、町の魅力を伝えよう」

学校創立 30 周年事業と連携して、町の魅力を表現するゆるキャラを児童達に募集し、全校児童や教職員から投票で選ばれたキャラクターのLINEスタンプを作成し、保護者や地域に発信した。キャラクター作成や投票をデジタルで行い、異学年間のつながりを促すと共に、楽しんでキャラクター作成にチャレンジすることができた。

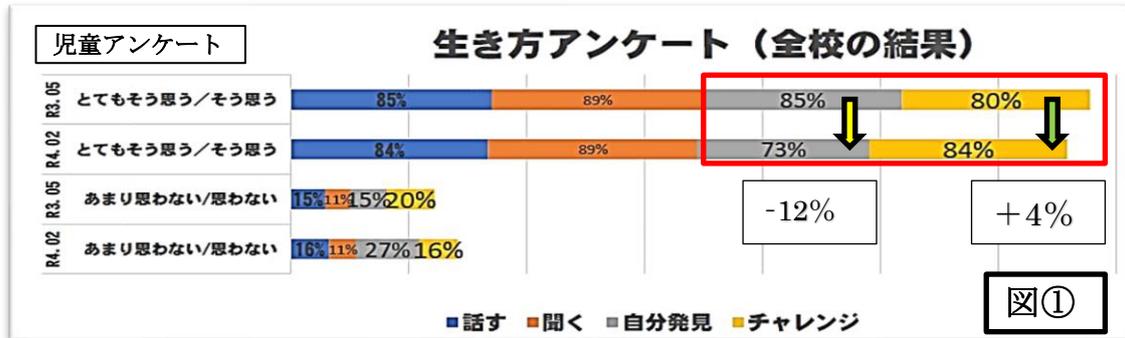
□児童が考案したゆるキャラ



5. 研究の成果

(1) 「育みたい力 ①つながり力（話す・聞く）②チャレンジ力③自分発見力」について
令和3年5月と令和4年2月の回答を比較（児童アンケート結果より）

※A層の増減で評価「とてもそう思う」（A層）「そう思う」（B層）



□「話すこと・聞くこと（つながり力）」は維持、「挑戦（チャレンジ力）」が4%増加。

上記の結果に結びついたと考えられる実践研究として以下の2点を挙げる。（図①）

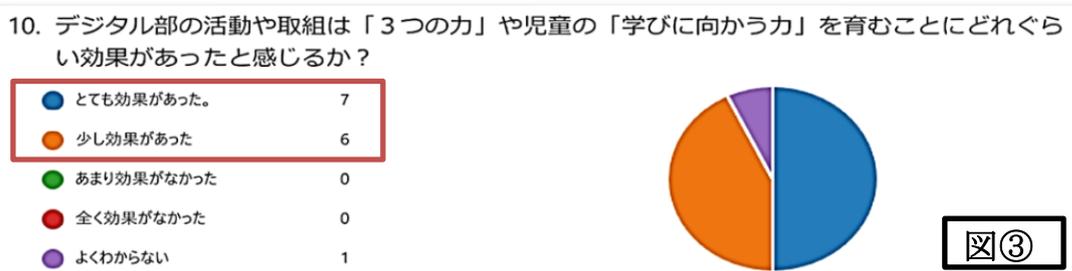
- ①コロナ禍においても、「他校との交流学习」などを中止することなくリモート形式で実施する等、児童達が学びを表現する場（チャレンジ）や交流の場（つながり力）を設けたこと。
- ②日常授業でのデジタルを活用した児童間の交流やデジタル掲示板で学年間での交流を促す場の設定。

(2) 本研究活動や指導実践が3つの力を達成するために効果があったと感じたか。

（教職員アンケート結果より）



「キャリア部の活動（年間指導計画やキャリアパスポートの作成・運用等）が3つの力を育むことに効果があったと感じるか」に対しては100%「とても効果があった」もしくは「少し効果があった」と回答した。（図②）



また、「デジタル部の活動（キャリアパスポートやアンケートのデジタル化、デジタル活用による児童間の交流の場の設定等）が3つ力を育むことに効果があったと感じるか」に対しては93%の職員が「とても効果があった」もしくは「少し効果があった」と回答した。（図③）

ある教職員は「遠隔授業など、授業に出られない児童にも学びを止めない工夫ができた。

児童も iPad の活用に慣れてきて児童間同士で教え合うなど、互いに助け合う姿も見られたことはよかった。」と回答している。

6. 今後の課題・展望

(1) 課題

◆育みたい力について 「自分発見力」が12%減少。(図①)

上記の結果になった理由の仮説として以下の2点があげられる。

- ① キャリアパスポートの意義の確認や効果的な運用のための職員間の情報共有が不十分であった。キャリアパスポートの実施3年目を迎え、活動は継続するも形骸化していた雰囲気がある。
- ② キャリア教育年間指導計画で毎月末に振り返りを計画し実施してきたが、月一度では不十分。長期スパンになると、児童は具体的なふりかえりができないのではないかと。

◆生き方アンケートの分析結果の活用

学年や学校全体のアンケート結果の分析やそれによる実践の改善等は行ってきたが、結果をもとにした個々の児童との対話が十分にできなかった。次年度は年間指導計画に具体的に組み込み、アンケート結果の活用を個にも焦点をあてて行っていきたい。

(2) 今後の展望

・多様な人たちと人間関係をつくっていくためにも、今後も他校との定期的な交流学习や地域人材や国際的視野を持った人材を活用した学習を継続する。場所や時間の選択肢が広がるリモートとリアルをどのように組み合わせると、ねらいに沿った効果的な活動になるかなどの実践も重ねていく。

・中学進学以後に不登校になる児童や別室登校の児童が微増傾向にある中、クラス内や異学年間など身近な人間関係のつながりに重点を置いた取組を実施していく。コロナ禍の影響やその児童の特性に合わせて、デジタルを効果的に活用することで、網目状の人間関係をつくっていけるような場の設定をしていきたい。

・自分発見力の低下の結果を受け、その解決のためには、児童自身がありのままの自分を受け入れられるような心の醸成を促す取組が必要と考える。そのために、月一回のキャリアパスポートの振り返りではなく、日々の活動の中で「できたこと」や「がんばったこと」を気付かせ、記録（可視化）していくような実践をする必要があると考える。日々前向きに生活するために、朝の時間に「今日がんばることを一文で書く」などの実践の工夫も行っていきたい。

7. おわりに

本年度2回目の助成をいただき、より一層 ICT 環境が整ったことに加えて GIGA スクール構想による環境整備の追い風もあって、校内の ICT 活用の機運が一層高まり、様々な実践を行うことができた。ICT の「チカラ」は学びの多様化、最適化を進めるツールとなり、私たちの指導方法や子ども達の学び方が拡張した実感が大いにある。しかし、適切な場面で効果的に活用する手法の確立や、児童自身がそれを主体的に選択し活用する力の育成のために、これからも積極的かつ継続的に実践を重ねていく必要がある。

GIGA 元年そして with コロナの中、多くの学校と同様、本校でも手探りしつつ、活動を進めていった1年であった。その中で、リスクを踏まえつつも失敗を恐れず、様々な実践を行い研究を進められたことは、本校職員の多大な協力と貢献があってからこそである。この場を借りて感謝を申し上げたい。

8. 参考文献

- ・日本キャリア教育学会 編 「新版 キャリア教育概説」 東洋館出版社
- ・東京都世田谷区立尾山台小学校「小学校だからこそ！キャリア教育！世田谷区立尾山台小学校の挑戦」